

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県南会場>

科目 ⑧放課後児童クラブに通うこどもの育成支援

- ◆ 学校とも保育園とも違う、子どもが安心して過ごす場所としてどのような配慮が必要であるかを学ぶことができた。特に今後必要であると感じたのは、子どもを理解しようとするところである。小学生という少しずつ心が育っていく中では、「早く家に帰りたい」「この遊びはしたくない」といった様々な思いが生まれてくる。それを受け止めながら、内にある気持ちを汲み取ることで安心できる存在になっていきたいと感じた。
- ◆ 学校と家庭の間にある放課後児童クラブは、子どもの学習より遊びにフォーカスして支援を行うことが必要であると学んだ。年齢や発達の状況が異なる子どもたちが同じ空間で長時間過ごすことになるため、子ども同士の関係構築はもちろん、安全面への考慮、意見の対立や喧嘩についても適切に援助していかなければいけないと改めて感じた。特にいじめについては命に関わるケースもあるため、慎重かつ適切に対応していきたい。
- ◆ 育成支援の内容について詳しく知ることができた。日々支援員として行っていることを文章として読むことによって、支援員の行動の一つ一つに意味があり子どもたちの育成支援に大きく関わっていくことを意識することができたと思う。基本的な生活習慣を身に付け安心して児童クラブに通い続けられるよう様々な角度から子どもたちの状況を把握して見守っていききたいと思う。
- ◆ 育成支援は環境や安全等の配慮とともに、自主性、社会性、創造性の向上、基本的な習慣の確立等により、健全な育成を図ることを目的としていることを理解した。保護者が安心して子どもを育て、子育てと仕事を両立できるよう支援することが必要とのこと。児童クラブの役割として漠然としていたことをハッキリと示してもらい深く納得した。保護者への対応を帰りのあいさつだけでなく、人間味のあるものにしていきたい。
- ◆ 研修教材や作成された資料を使っのエピソードを聞くことで、内容がよく理解できた。子どもたちの普段の様子を把握しておくことで、その日の心身の変化に気付くことができるということを再確認できた。これからは悩みや相談ごとを話せたり、ほっとすると感じられたりする環境を作れるように、子どもたちの言葉を大切に、言葉にできない思いも汲み取ることができるような支援員を目指していきたい。